**2007年度夏学期　経済１（竹野）　期末試験**

持込不可　時間：80分

以下の全ての問題に答えなさい。

I　正しいと思われる選択肢の記号を丸で囲みなさい。

１）ある合理的な消費者がロンドンを訪れるよりもパリを訪れる方を好むとする。この消費者が、パリ行き、ロンドン行き、ニューヨーク行き、ストックホルム行きのチケットのうち1枚を選べるとしたら、（文を完成させなさい）
（A)ロンドンを選ぶことはない　（B)必ずパリを選ぶ　（C)ニューヨークを選ぶ可能性がある　（D)ストックホルムを選ぶ可能性がある　（E)（C）と（D)の両方　（F)（A)と（C)と（D)すべて

２）ある消費者の効用がMin{Wine,Cheese}で与えられ、ワインの価格がチーズの価格の三倍であったとする。この時、この消費者のチーズの需要についてどんなことがいえるか？
（A)チーズの需要量はワインの需要量の三倍である。　（B)チーズの需要量はワインの需要量の３分の１である　（C)与えられた情報だけでは決めることは出来ない　（D)（A)、（B)、（C)いずれでもない

３）完全競争市場についての以下の文章のうち、正しくないものはどれか？
（A)価格が限界費用と等しい　（B)総余剰が最大化されている　（C)企業が利潤を最大化するために価格に影響を与えることが出来る　（D)財が可能な限りもっとも低コストで生産される　（E)BとCの両方

４）代替効果は
（A)常に正である　（B)常に負である　（C)正か負かを決めることは出来ない

５）所得効果は
（A)常に正である　（B)常に負である　（C)正か負かを決めることは出来ない

６）完全競争市場を考える。各企業は同一の費用関数がc(y)=y2を持ち、需要はP(Y)=100-Yで与えられている。（Y=yi）この産業が長期均衡にあり、そのときの物価水準がP(Y)=10である時、この時市場で操業している企業の数　ｎ　は、
（A)10　（B)15　（C)20　(D)25　（E)（A)～（D)のいずれでもない。

II　効用関数が存在するために必要とされる公理を全て挙げなさい。

III　完全競争市場が成立する条件を全て挙げなさい。

IV　次の文章を読んで、以下の問題に答えなさい。
「市場原理が猛威をふるっています。（A)各自が利己的に利潤を追求していれば「神の見えざる手」に導かれ、社会は全体として調和し豊かになる、というものです。・・・（B)市場にまかせるのが一番よい、というものです。これがあっては、現代に生きる人々が金銭至上主義になるのは仕方ありません。（C)金銭亡者になることが社会への貢献になるのですから。」藤原正彦（著）「国家の品格」より

１）下線部（A)について、この文章の筆者が市場について誤解していると考えられる点を指摘しなさい。

２）下線部（B)について、経済学では、何がどのように一番良いとするのか説明しなさい。また、いつそのような状況になるとしているか説明しなさい。

３）下線部（B)に関連し、経済学では市場にまかせない方がよいとする場合の例を二つ挙げなさい。

４）下線部（C)が正しいといえるか簡潔に論述しなさい。その際、（１）昨今の国内外のニュースから、関連すると思われる例を挙げ、（２）それについて、今学期学んだ定理、定義、概念等による経済学的視点に基づき論述すること。

V　部分均衡モデルにより、自由貿易を考える。授業で解説したケースと同様に、一つの財を輸出入している自国と外国があり、両国では貿易開始前には完全競争が成立しているとする。外部経済は存在せず、輸送コストは無視できるものとする。貿易開始前に両国で、この財の市場均衡価格が同じであったとしたら、両国が貿易をすることで社会厚生水準は上昇するか否か、簡潔に論じなさい。

VI　ｙという製品を市場に供給する独占企業を考える。この企業の費用関数はｃ（ｙ）＝ｙ２であり、需要はＰ（ｙ）＝８０－ｙで与えられている。この企業の供給量を求め、その時の消費者余剰を求めなさい。

VII　ＡとＢ、２人の交換経済を考える。財Ｘは４０、財Ｙは３５あるとする。Ａの効用関数はＵＡ（ＸＡ，ＹＡ）＝ＸＡ1/4ＹＡ3/4、Ｂの効用はＵＢ（ＸＢ，ＹＢ）＝ＸＢ2/3ＹＢ1/3であり、ＸＡ＋ＸＢ＝Ｘ，ＹＡ＋ＹＢ＝Ｙを満たす以下の配分Ａ～Ｄのうち、パレート効率的であるものを全て答えなさい

Ａ：（ＸＡ，ＹＡ）＝（20，30），（ＸＢ，ＹＢ）＝（20，5）、
Ｂ：（ＸＡ，ＹＡ）＝（10，15），（ＸＢ，ＹＢ）＝（30，20）、
Ｃ：（ＸＡ，ＹＡ）＝（25，10），（ＸＢ，ＹＢ）＝（15，25）、
Ｄ：（ＸＡ，ＹＡ）＝（16，28），（ＸＢ，ＹＢ）＝（24，7）